

個人投資家向け説明会資料

積水樹脂グループの紹介

(東証プライム 4212)

2026年8月

暮らしの安全・安心を支えるニッチトップ企業

公共・民間の幅広い分野で、社会に必要とされる製品を展開。
積水樹脂単体売上の約6割を、シェア3位以内(※)の製品が
占めています (※)自社調べ



社会課題解決型の事業で成長を続ける

防災・減災、インフラ更新、省人化などの成長市場で事業を拡大



当期28円増配(前期比約4割増)の年間100円へ

17期連続増配を実施。累進配当(※)を基本に株主還元を強化中。
当期は、増配の水準を大きく上昇させ、
中間は56円(前期比+20円)、期末は44円(前期比+8円)、
前期比4割増の年間100円(+28円)の配当を予想



(※)原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行う配当政策

1

会社・事業概要

2

暮らしの身近なところに「積水樹脂」

3

2030年にむけた成長戦略

4

業績の推移と今期の計画

5

日経連続増配株指数にも選出
18期連続増配を続ける株主還元



人財への投資と、技術への投資を両輪に
成長戦略を一つひとつ実現していきます

代表取締役社長 兼 CEO ^{ば ば ひろし} 馬場 浩志

- 1987年 4月 当社入社
主として住建事業(メッシュフェンス・めかくし塀など)に
携わり、同事業の拡大成長に尽力。
- 2007年 6月 当社執行役員
- 2009年 6月 当社取締役
- 2015年 6月 当社代表取締役副社長(兼)副社長執行役員
- 2016年 4月 当社代表取締役社長(兼)COO(兼)社長執行役員
- 2022年 4月 当社代表取締役社長(兼)CEO(兼)社長執行役員(現任)

会社概要

設立



1954年
11月26日

本年11月で
創立**72**周年

上場取引所



東証プライム市場
(証券コード 4212)

配当



100円

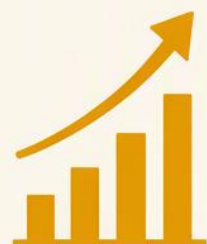
2026年度(予想)

中間
56円

期末
44円

18期連続増配予定

連結売上高(2025年度)



781億円
(78,163百万円)

連結営業利益(2025年度)



56億円
(5,685百万円)

グループ会社(連結)

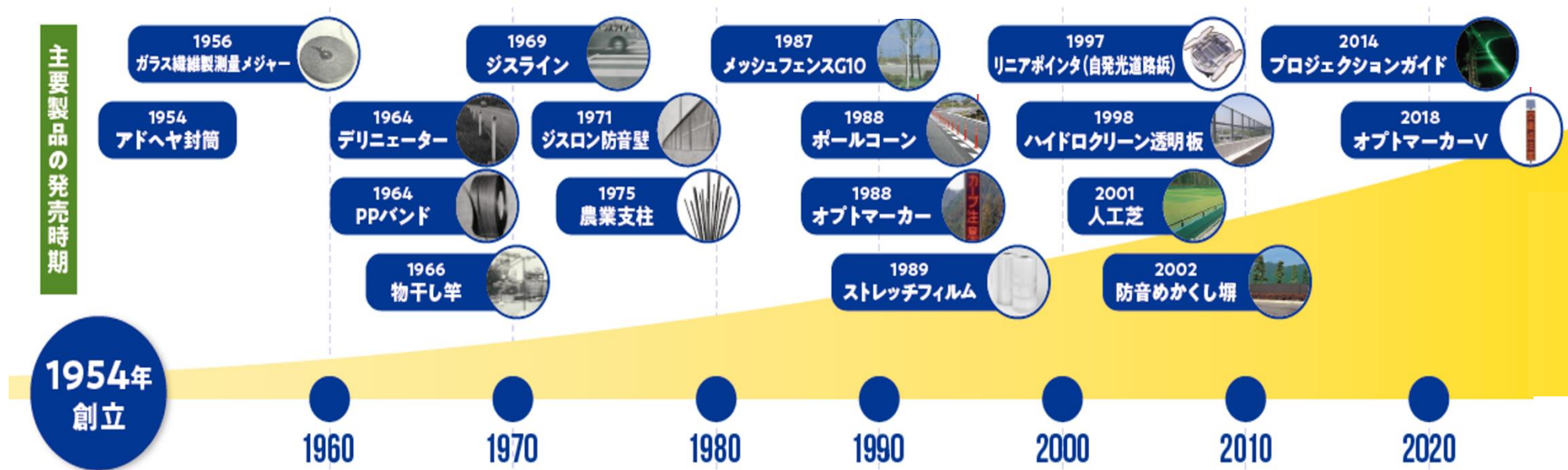


国内・海外
25社

国内 **14**社

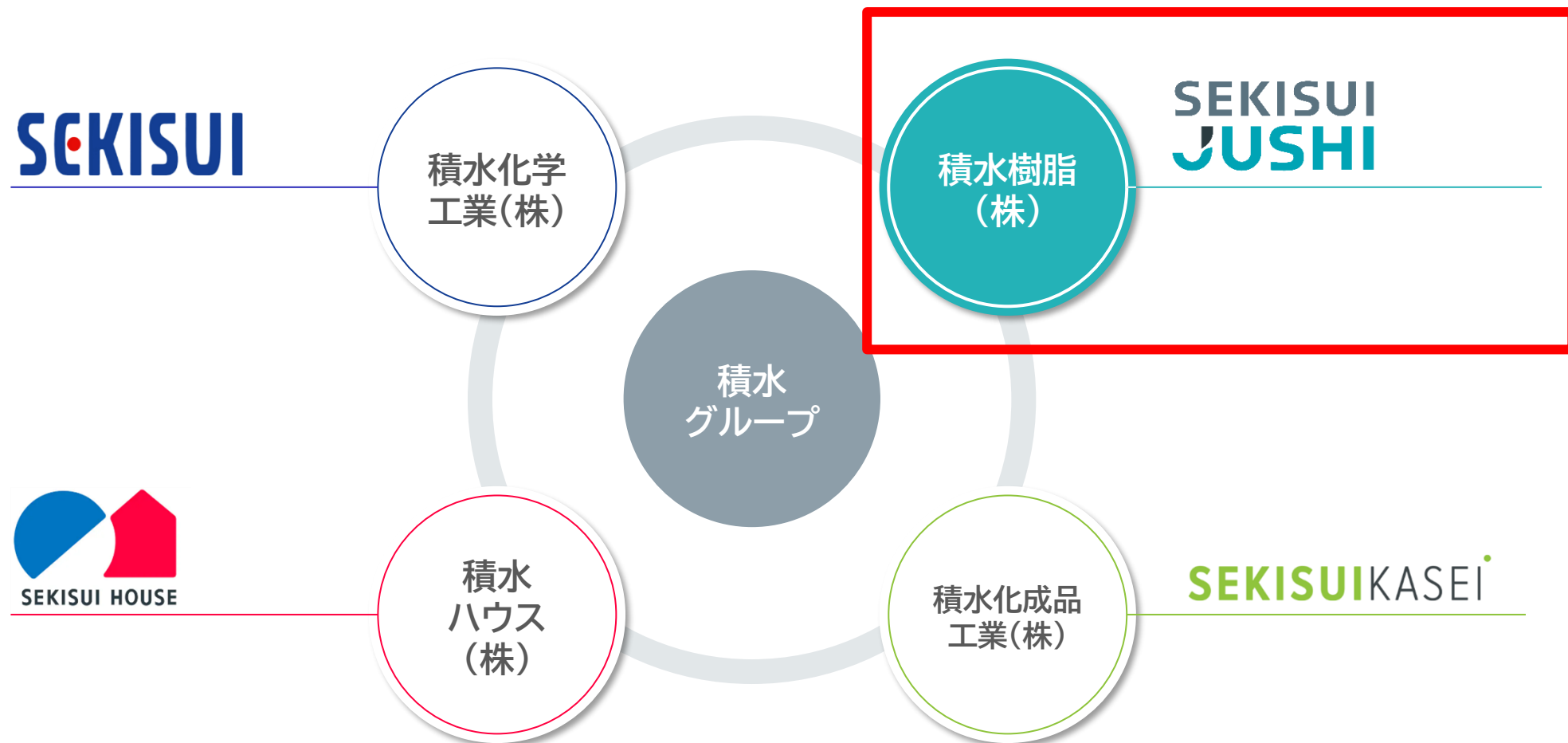
海外 **11**社

積水樹脂は1954年、積水化学工業の接着剤事業を母体に創業しました。その後、樹脂・金属・表面処理などの「複合技術」を活かし、公共・民間の幅広い分野へ事業を拡大。70年以上にわたり培ってきた技術と信頼を土台に、くらしの安全・安心を支える製品・サービスを展開しています



積水グループの概要

4社は積水グループの中核企業であり、それぞれ独立した事業活動を行っています。「積水」ブランドを共有し、事業面における良きパートナーとして良好な関係を継続しています



事業の概要

「複合技術を活かし安全・安心・環境に
貢献するモノづくり」で信頼を築いています



公共分野

安全・安心で美しい
みち・まちづくりに貢献

売上高
構成比率 **53.2%**
売上高 **41,589**百万円

民間分野

住環境や物流・農業分野での
課題解決に貢献

売上高
構成比率 **46.8%**
売上高 **36,573**百万円

公共分野主要製品

都市環境関連事業



交通・標識関連事業



景観関連事業



スポーツ施設関連事業



関連グループ会社事業



民間分野主要製品

住建関連事業



総合物流・アグリ関連事業



関連グループ会社事業

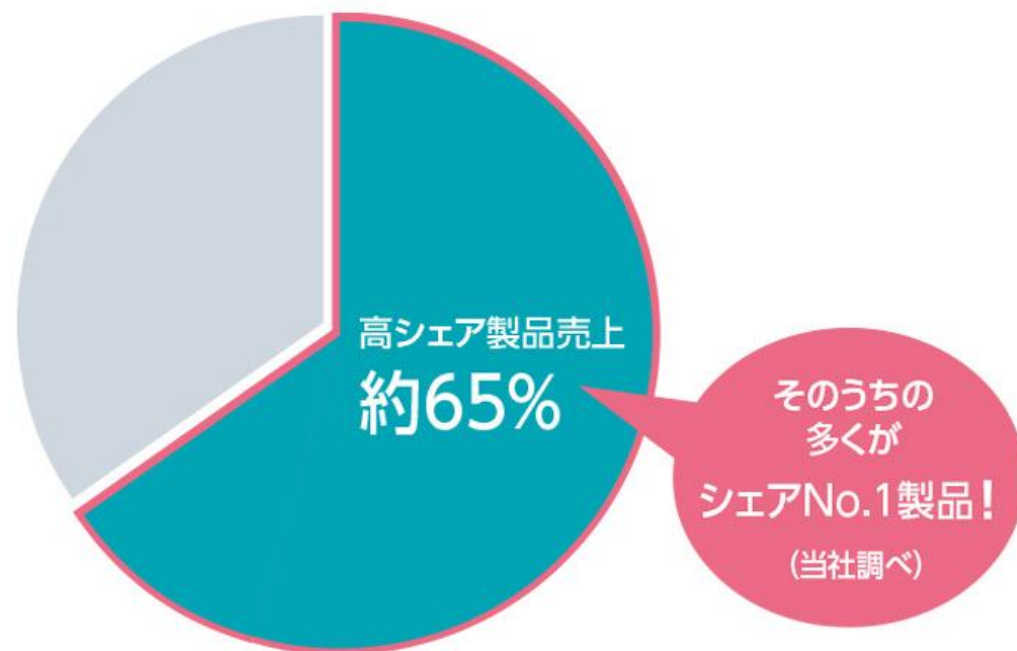


強み

～単体売上高の約6割を高シェア製品が占めるニッチトップ～

みち、まち、住空間、物流・農業など、社会に欠かせない分野で高い国内シェアを獲得。積水樹脂単体売上高の約6割を高シェア製品群が占めています。また、そのうちの多くがシェアNo.1製品です

積水樹脂の売上高に占める高シェア製品群の売上
※当社調べ



積水樹脂単体売上高ベース
高シェア製品は国内市場シェア3位以内の製品※当社調べ

高シェア製品群の一例



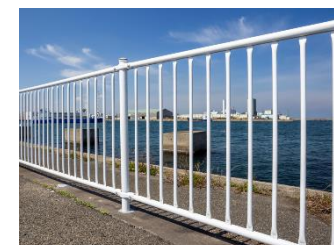
メッシュフェンス



ポールコーン



防音壁(吸音板)



防護柵(歩行者自転車柵)



グラウンド用人工芝



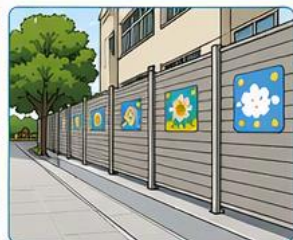
PPバンド

強み

～ニッチトップを支える競争優位性～

1 総合提案力

公共・民間の幅広い分野で
事業展開する積水樹脂グループ
だからこそ可能な「総合提案」。
設計対応力を活かして、
まち、みち、住環境などにおける
様々な課題を解決する製品・サービスを
トータルでご提案しています。



2 長く使われる品質・耐久性

公共インフラや屋外施設など、
長期間使用される場面が多いため、
品質・安全性・耐久性を
重視した製品づくりを
行っています。



品質



安全性



耐久性

3 製品企画・開発力

世の中のニーズを
キャッチアップして
価値ある製品を創り出す
「製品企画・開発力」が
強みです。

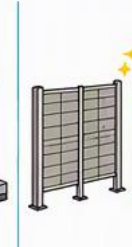
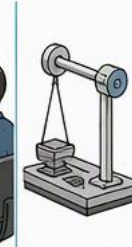
ニーズの把握

企画

開発・設計

試験・検証

製品化



4 継続的な改良による信頼の蓄積

製品を採用頂いた後も
利用現場の声を反映しながら
改良を重ねることで、
長年にわたり
信頼関係を築いています。



強み

～高シェア製品を生み出す5つのコア技術～

① 騒音を抑える技術 (音響制御技術)



高速道路や幹線道路沿線の
騒音を低減し、快適な生活環境に貢献

主な製品例

防音壁

防音めかくし堀

② サビ・劣化を防ぐ技術 (表面処理技術)



サビや劣化を防ぎ、
長期間使えるインフラ製品を実現

主な製品例

メッシュフェンス

防護柵

標識柱

③ 強く安全な製品を つくる技術 (金属加工技術)



強度・安全 デザイン性を両立した
品を実現

主な製品例

防護柵

めかくし堀

バスシェルター

④ 道路の安全を 支える技術 (土木用電子技術)



道路利用者の安全性向上や
防災・減災に貢献

主な製品例

LED表示板

自発光視線誘導標

⑤ 樹脂加工技術 (複合押出技術)



様々な表情や形状を表現し、
機能性の高い製品を実現

主な製品例

ポールコーン

人工木製品

PPバンド

これらの技術で、持続可能で安全・安心な社会の実現に貢献します。



交通安全

事故の防止や
安全な移動を支える



インフラの長寿命化

社会基盤を長く
安全に維持する



快適なまち・生活

騒音対策や景観向上により
快適なまち・生活に貢献

強み

～高シェア製品開発を支える 性能確認試験走路「道夢道」～
どうむどう

「道夢道」は製品の性能・品質を実際の使用条件で実験する
試験走路と研究施設です

製品の信頼性・技術力の向上や製品開発のスピード
アップを図るため、視認性・施工性・景観性・耐久性などを
検証・評価しています



道夢道



道夢道(夜間)

道夢道の主な性能・機能確認試験

走踏試験



落錘衝撃試験



電子製品視認性確認試験



音響測定試験



住宅部材性能確認試験



1

会社・事業概要

2

暮らしの身近なところに「積水樹脂」

3

2030年にむけた成長戦略

4

業績の推移と今期の計画

5

日経連続増配株指数にも選出
18期連続増配を続ける株主還元

暮らしの身近なところに、積水樹脂の製品があります

道路・公園・住宅まわり、公共施設など、暮らしの中で当たり前に使われ、普段は誰が支えているか意識されることの少ない場所で、社会の安全・安心を支えています。



みち



まち



住空間



物流、農業

暮らしの身近なところに積水樹脂製品(公共分野)

積水樹脂株式会社

防音壁

長期間の美観を維持するアルミ枠透明板

高速道路や鉄道路線から発生する音源に対し、周辺住宅地などの音環境に配慮するための防音壁です



車線分離標(ポールコーン) / 路面標示材 / 道路標識



都市環境関連事業
交通・標識関連事業



みち

LED電光表示板



豪雨時の道路冠水事故対策

冠水注意喚起システム



暮らしの身近なところに積水樹脂製品(公共分野)

積水樹脂株式会社

防護柵



通路シェルター



まち

車止め



人工木製品



景観関連事業

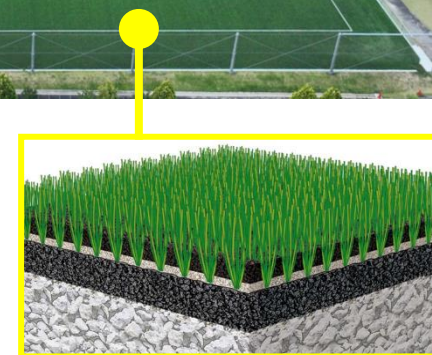
暮らしの身近なところに積水樹脂製品(公共分野)

積水樹脂株式会社

人工芝



まち



スポーツ施設関連事業

暮らしの身近なところに積水樹脂製品(民間分野)

メッシュフェンス



住空間

機械式駐車場フェンス



縦格子フェンス





住空間

めかくし塀 / 防音めかくし塀

地震によるブロック塀倒壊対策



学校室外機や工場の騒音対策



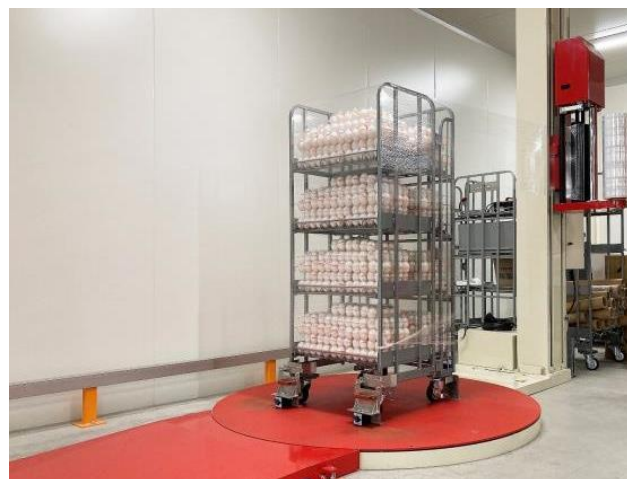
住民や歩行者の安心・安全や快適な暮らしに貢献しながら、景観に調和するデザインです

暮らしの身近なところに積水樹脂製品(民間分野)

梱包用結束バンド



ストレッチフィルム包装機



物流、農業



ストレッチフィルム

農業用支柱



獣害対策製品

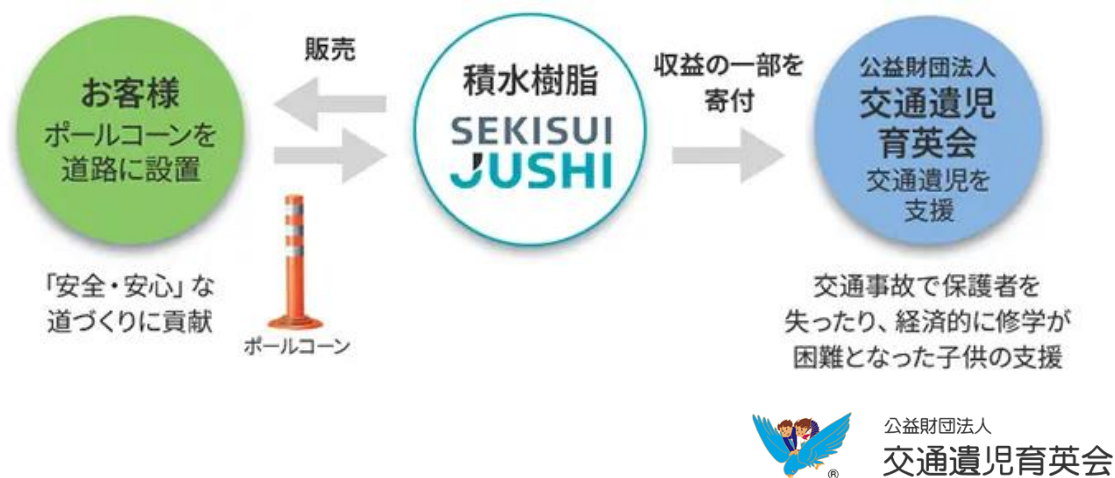


シカなどの野生動物による
食害から樹木を守る
獣害対策製品

社会貢献活動

「公益財団法人 交通遺児育英会」の活動支援

交通安全に携わる企業として、保護者が交通事故で亡くなる等の理由で経済的に修学が困難になった子ども達への就学を支援する「公益財団法人 交通遺児育英会」に対し、車線分離標「ポールコーン」の収益の一部を寄付する取り組みを2011年より、継続して行っています。



車線分離標「ポールコーン」

1

会社・事業概要

2

暮らしの身近なところに「積水樹脂」

3

2030年にむけた成長戦略

4

業績の推移と今期の計画

5

日経連続増配株指数にも選出
18期連続増配を続ける株主還元

「積水樹脂グループビジョン2030」と「中期経営計画2027」



目指すべき会社像

人的資本を中心とした価値創造プロセスを持続的に発展させ、世界の人々の安全・安心・快適な暮らしを支え続ける企業グループ

財務目標(2029年度)

売上高 1,000億円 以上

営業利益 130億円 以上

ROE 8% 以上

成長戦略の昇華

Step3

次期中期経営計画
(2027年度～2029年度)

成長戦略の開始

Step2

中期経営計画2027
(2024年度～2026年度)

Step1

中期経営計画2027の基本方針

積水樹脂グループビジョン2030『3つの基本方針』



人的資本の価値最大化



成長戦略による拡大



サステナビリティ経営の推進



資本コストや株価を意識した
経営への取り組み

「積水樹脂グループビジョン2030」の目標

売上高

1,000億円以上

(内、海外売上高比率20%以上)

営業利益

130億円以上

ROE

(Return on Equity)

8.0%以上

財務目標(連結)

Financial Targets

目標
Targets

(2030年3月期)

非財務目標

Nonfinancial Targets

ダイバーシティ＆
インクルージョンの推進

中核人材に占める女性・外国人・
キャリア採用者等の比率30%以上

従業員の
ワークライフバランス支援

育児／介護支援体制の整備、健康経営の実践

組織の持続可能性向上

各階層の後継者計画の導入

脱炭素の取り組み強化

CO₂ 排出量46%削減 (2013年度比)

3Rシステムの展開拡大
3R: リデュース・リユース・リサイクル

(当社製品の包装に使われる)
ワンウェイプラスチック25%削減 (2021年度比)

サステナビリティ貢献製品の
販売拡大

70%以上 (連結売上高比)

市場環境：インフラ更新・国土強靱化が追い風

成長を支える2つの市場

～長期にわたり拡大する安定的な成長市場～



① インフラ更新需要

老朽化したインフラの維持管理・更新は今後も継続的に発生

今後30年間の
維持管理・更新需要

約**190～280**兆円^{※1}

道路橋の老朽化が加速

道路橋 約**73**万橋^{※2}

建設後50年超の割合

2023年

2040年

37%

75%

2040年には
約**75%**が建設後**50年超**に

主な更新対象（当社関連領域）



橋りょう
補修・補強



防音壁（遮音壁）
更新



標識・情報板
更新



落下物防止柵
更新



② 国土強靱化需要

自然災害の激甚化・頻発化に対応するため、
防災・減災、国土強靱化の取り組みを加速

第1次国土強靱化
実施中期計画^{※3}
(2026～2030年度)

約**20**兆円超

2025年6月
閣議決定

主な施策（当社が貢献する領域）

橋梁耐震化



緊急輸送道路整備



高速道路
4車線化



河川・流域治水



防護柵整備



老朽インフラ補修



自動運転・スマート道路への対応（次世代道路インフラの整備を推進）



自動運転トラックの実装
(高速道路での実証・実装推進)



路車協調（V2I）
インフラ整備



デジタル道路インフラ
(情報収集・提供基盤)



交通安全DX
(事故防止・渋滞緩和)

※1 国土交通省「社会資本の維持管理・更新費の推計(2018年推計)」より（今後30年間の事後保全：約280兆円、予防保全：約190兆円）

※2 国土交通省「道路メンテナンス年報2023」

※3 国土強靱化推進本部「第1次国土強靱化実施中期計画(2026～2030年度)」

重点7分野: 社会課題解決を成長機会へ

交通安全



自動運転等次世代交通技術



現場の安全、省人・省力化



騒音低減



防災・減災

災害時の道路管理・監視業務の省人・省力化が図れ、防災・減災への貢献



インフラメンテナンス

道路インフラの長寿命化



脱炭素・循環型システム

再生原料使用によるCO₂排出量削減



重点7分野の具体的な取り組み例のご紹介

社会課題の解決につながる分野で、当社の技術や強みを活かした事業を拡大しています

- 国土強靱化へ貢献する防災・減災関連事業
- 省人化に貢献するRFIDソリューション
- ペロブスカイト太陽電池の普及を支える事業
- 交通安全事業(①IoT ②海外展開)

「小型IoT水位センサ」「遠隔操作対応LED表示板」「嵩上げ防水柵」など
多様な災害対策製品群の展開を強化し、自然災害の激甚化という社会課題解決に貢献していきます

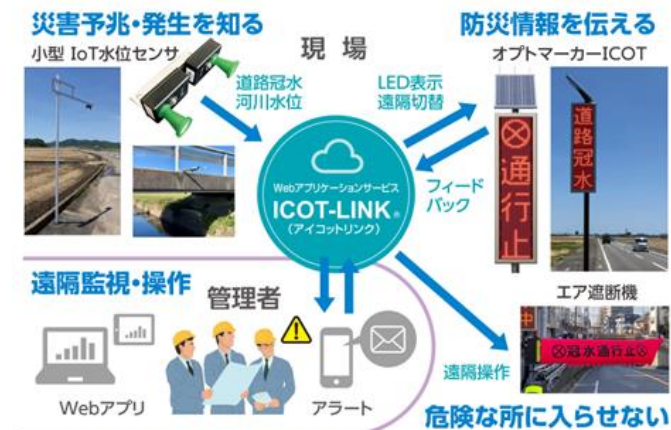
市場背景

- 地球温暖化により我が国ではゲリラ豪雨などの大雨・洪水災害のリスクが高まる一方、多くの地方自治体の対策人員は慢性的に不足
- 政府は国土強靱化を目指し、防災・減災インフラの整備に予算を配分

- 政府は第1次国土強靱化実施中期計画（2026年度～2030年度）を閣議決定
- 2026年度には防災庁が設置予定

当社のソリューション

- ソフト面・・・道路・河川管理者向けWebアプリ「ICOT(アイコット)-LINK」と連携可能な「IoTセンサ」、「IoTデバイス」を開発し、クラウド連携による広域(災害対応)システムへ拡張、進化
- ハード面・・・「嵩上げ防水柵」など多彩な防災・減災対策製品を開発



省人化に貢献するRFIDソリューション事業

様々な現場での普及が進むRFID分野において、
透明電波吸収パネル素材を活用した電波制御技術により、省人化・省力化ニーズに
貢献していきます

市場背景

- 無線電波を発信するICタグのデータを、非接触で複数、同時に読み書きすることが可能なRFIDシステムは、人手不足対応やサプライチェーン可視化を支えるデータ基盤として生産及び物流施設を中心に、利用が拡大
- RFIDの誤認識問題が課題となっていて、多くの現場で物理的な電波制御を必要とするが、設置スペースも限られている



当社のソリューション

- 薄型で透明な電波吸収パネルを開発
- 省スペース・安全性・視認性にすぐれた新たなソリューションを提供



入出荷管理ゲートや仕分けラインなどに採用

今後の展望

- 店舗管理分野などへの展開



RFIDレジ



セキュリティゲート

市場背景

- フィルム型ペロブスカイト太陽電池は「薄型」「軽量」「柔軟」という特徴を持つため、現在主流のシリコン型太陽電池では設置が難しい場所や領域への展開が期待されている
- 経済産業省が「グリーンイノベーション(GI)」基金を活用した補助金により、公共インフラへの導入実証を支援し、道路の防音壁やパーキングエリア、鉄道駅や空港、港湾施設の屋根など設置困難だった場所での展開が支援対象に

当社のソリューション

- ・道路付帯製品の分野で長く培った屋外環境に耐える接着・設置技術で公共インフラ分野での社会実装を支援
- ・大阪・関西万博会場西ゲートにおいて積水化学工業(株)が約250メートルのフィルム型ペロブスカイト太陽電池の実証実験を行い、当社はフィルム型ペロブスカイト太陽電池搭載可能なバス停シェルターの開発に参画

今後の展望

- ・フィルム型ペロブスカイト太陽電池の薄くて軽くて曲げられる製品特性を活かし、まずは当社製品をベースとしたフィルム型ペロブスカイト太陽電池搭載製品の開発をすすめる



交通安全事業 ～① 自動運転社会に貢献する路車間連携事業～

「LED表示板」「道路鋏」等の道路付属施設と自動運転車両とを無線通信で繋ぎ、歩行者への注意喚起と自動運転車の運行を支援することで自動運転社会の実現に貢献します

市場背景

- 自動運転は交通事故低減に加え、高齢化や地方過疎化、物流業界の労働力不足など我が国の社会課題解決に貢献する技術であり、産官一体となって実現を目指しています
- 自動運転車両と道路利用者(車両、自転車、歩行者、自動運転車両)が混在する道路空間において、**道路インフラ側での交通安全対策についても、変化が求められています**

- 国土交通省は第3次交通政策基本計画(2025年10月発表)にて、2030年度までに自動運転サービス車両を目標1万台に設定

当社のソリューション

- 道路に設置されたセンサやカメラより得られた情報を**道路利用者(車両、自転車、歩行者、自動運転車両)**に提供する「LED表示板」や**太陽電池にて路車間連携可能な発光デバイスを開発し、**様々な実証実験に参画しています



和歌山県太地町での実証実験

今後の展望

- 自動運転社会を実現する路車間連携交通安全製品の開発を継続
- 実証実験を通じて、**技術確立と将来の社会実装に備えていきます**

交通安全事業 ～② 海外展開～

積水樹脂グループビジョン2030では、2029年度(2030年3月期)に、海外売上高20%以上(連結売上高比)を目標としています。その中の1つとして、**交通安全事業を通じて、海外の人々の安全・安心な暮らしづくりに貢献していきます**

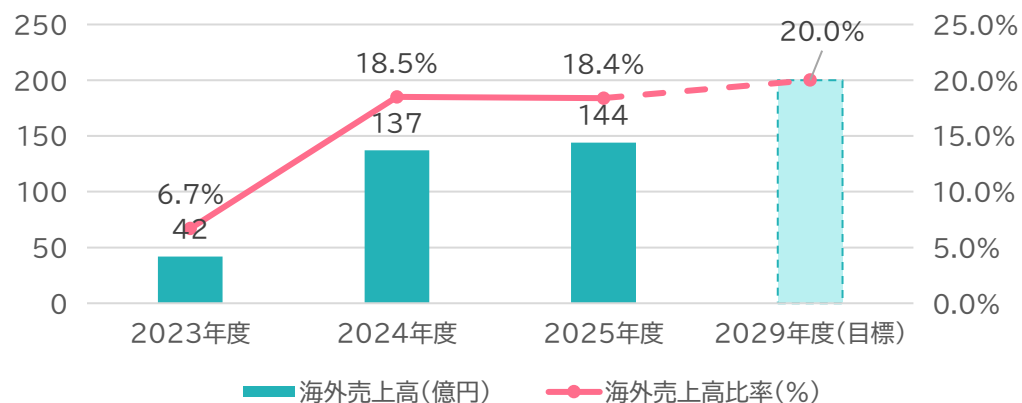
◆欧州

欧州の交通安全事業においては、WEMASグループ(ドイツ)およびJISLON (Europe) B.V. (オランダ) を中核とした事業体制のもと、製品力および販売網の再強化を進めています。仮設・常設双方の製品領域をカバーする体制を活かし、市場ニーズに応じた提案力の強化を図っています。さらに、積水樹脂の開発部門と連携して技術開発を推進することで、グループシナジーを発揮しながら製品の競争力強化と付加価値向上に取り組み、持続的な収益拡大を図ります

◆東南アジア

東南アジアの交通安全事業においては、タイでの事業基盤固めに注力しています

海外売上高と海外売上比率の推移



海外で設置されている交通安全製品例



仮設交通安全製品
警告灯付きデリネーター



常設交通安全製品
ミラー

1

会社・事業概要

2

暮らしの身近なところに「積水樹脂」

3

2030年にむけた成長戦略

4

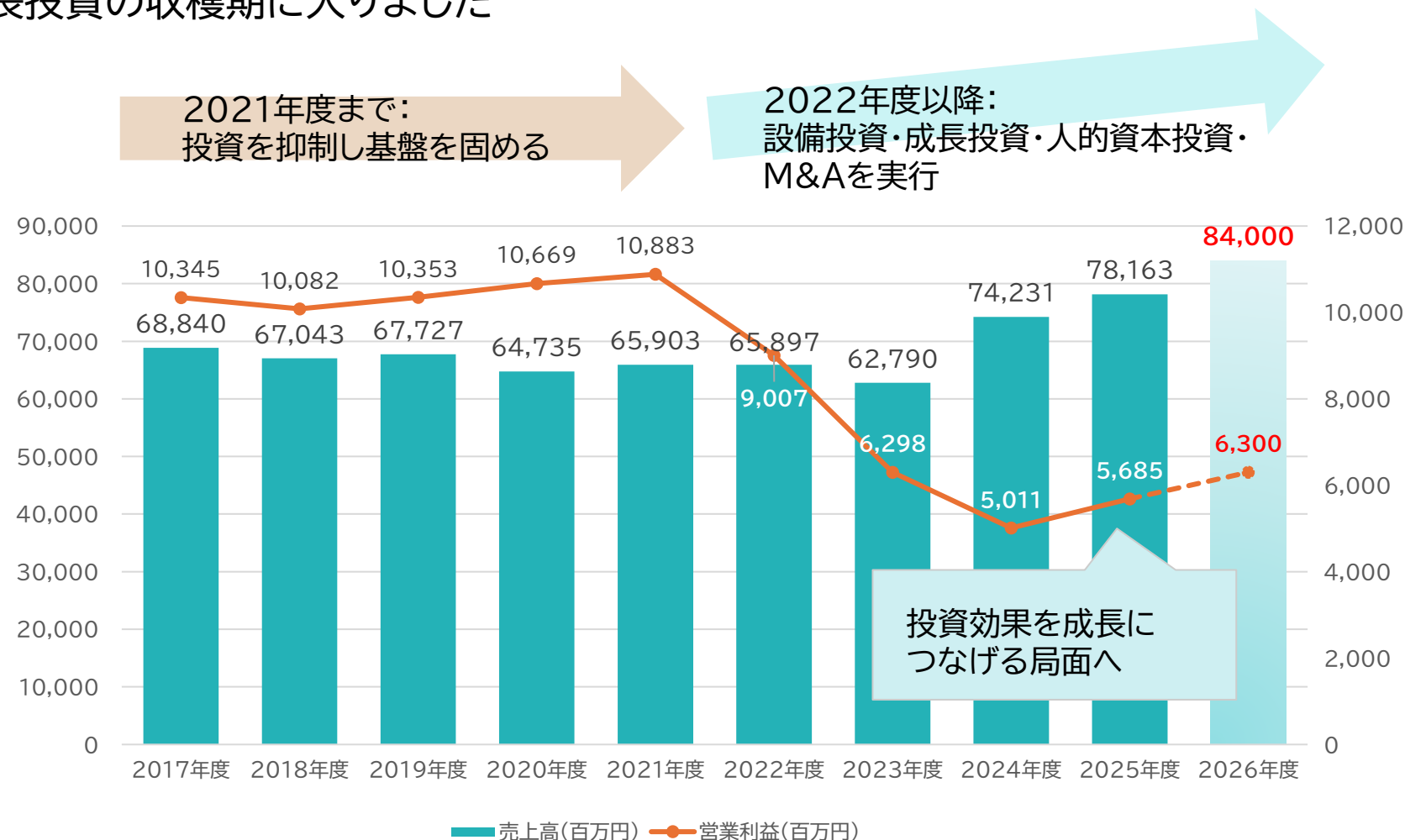
業績の推移と今期の計画

5

日経連続増配株指数にも選出
18期連続増配を続ける株主還元

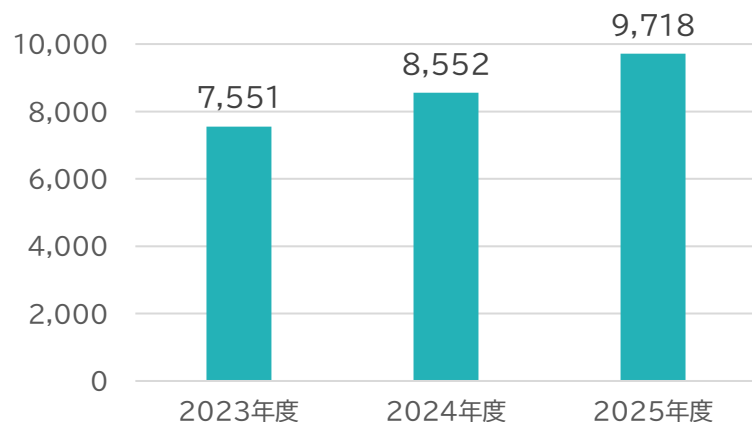
売上・利益推移

2022年度以降、成長に向けた投資フェーズへ転換
2024年度までは戦略的踊り場であったが、2025年度からは「2ケタ」増益
成長投資の収穫期に入りました



EBITDA
(営業利益＋減価償却費＋のれん償却額)

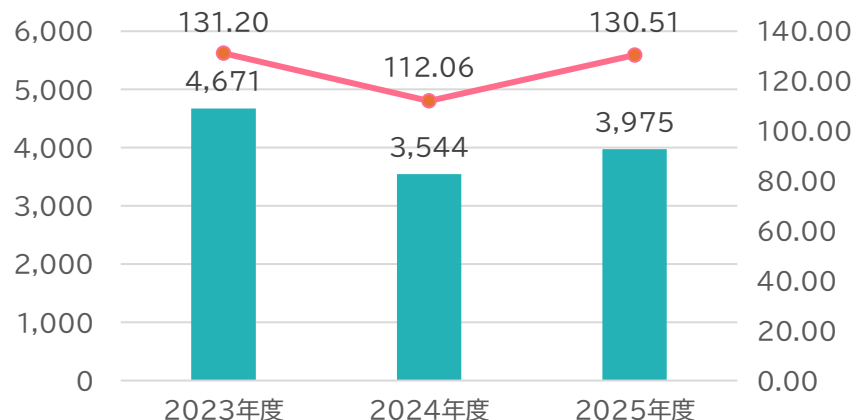
(百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益／EPS

(百万円)

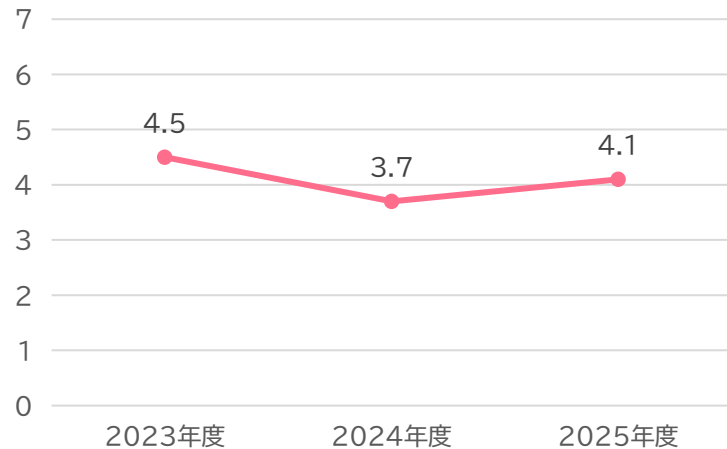
(円)



親会社株主に帰属する当期純利益 1株当たり当期純利益額

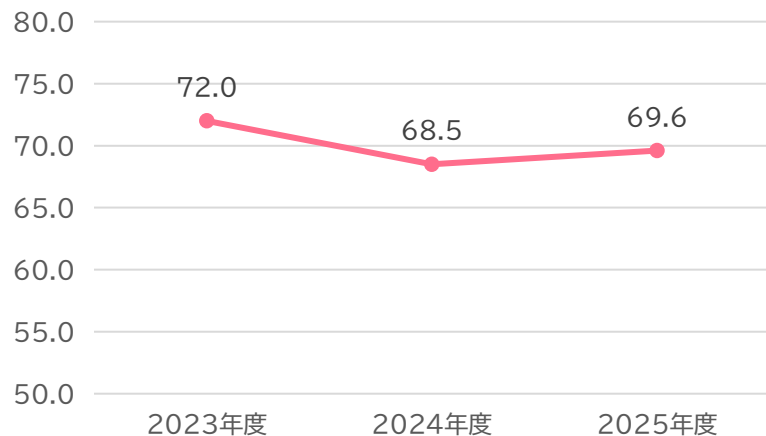
ROE

(%)



自己資本比率

(%)



2027年3月期は、地政学リスクを折り込みながらも、堅調な進捗で**増収、増益**を見込んでいます

	2026年3月期		2027年3月期		前年同期比	前年同期増減率
	金額 a	売上比 -	金額 c	売上比 -		
(百万円)					c-a	(c-a)/a
売上高	78,163	100.0%	84,000	100.0%	+5,836	+7.5%
営業利益	5,685	7.3%	6,300	7.5%	+614	+10.8%
経常利益	6,261	8.0%	6,500	7.7%	+238	+3.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,975	5.1%	5,400	6.4%	+1,424	+35.8%
EBITDA ※	9,718	12.4%	10,700	12.7%	+982	+10.1%
1株あたり純利益	130.51円		180.08円		+49.57円	
ROE	4.1%		5.5%		+1.4pt	

※ EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額)はキャッシュを創出する力を測る指標として重視しています

1

会社・事業概要

2

暮らしの身近なところに「積水樹脂」

3

2030年にむけた成長戦略

4

業績の推移と今期の計画

5

日経連続増配株指数にも選出
18期連続増配を続ける株主還元

積水樹脂の株主還元方針

累進配当(※)、連結配当性向40%以上

『積水樹脂グループビジョン2030』期間中(2030年3月期まで)は累進配当を基本方針として実施し、連結配当性向については40%以上の維持を目指します(配当金の方針)

(※)原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行う配当政策

自己株取得も実施し、総還元性向100%以上

2027年3月期まで、剰余金の配当と自己株式の取得を合わせた総還元性向については100%以上の維持を目指します(株主総還元の方針)

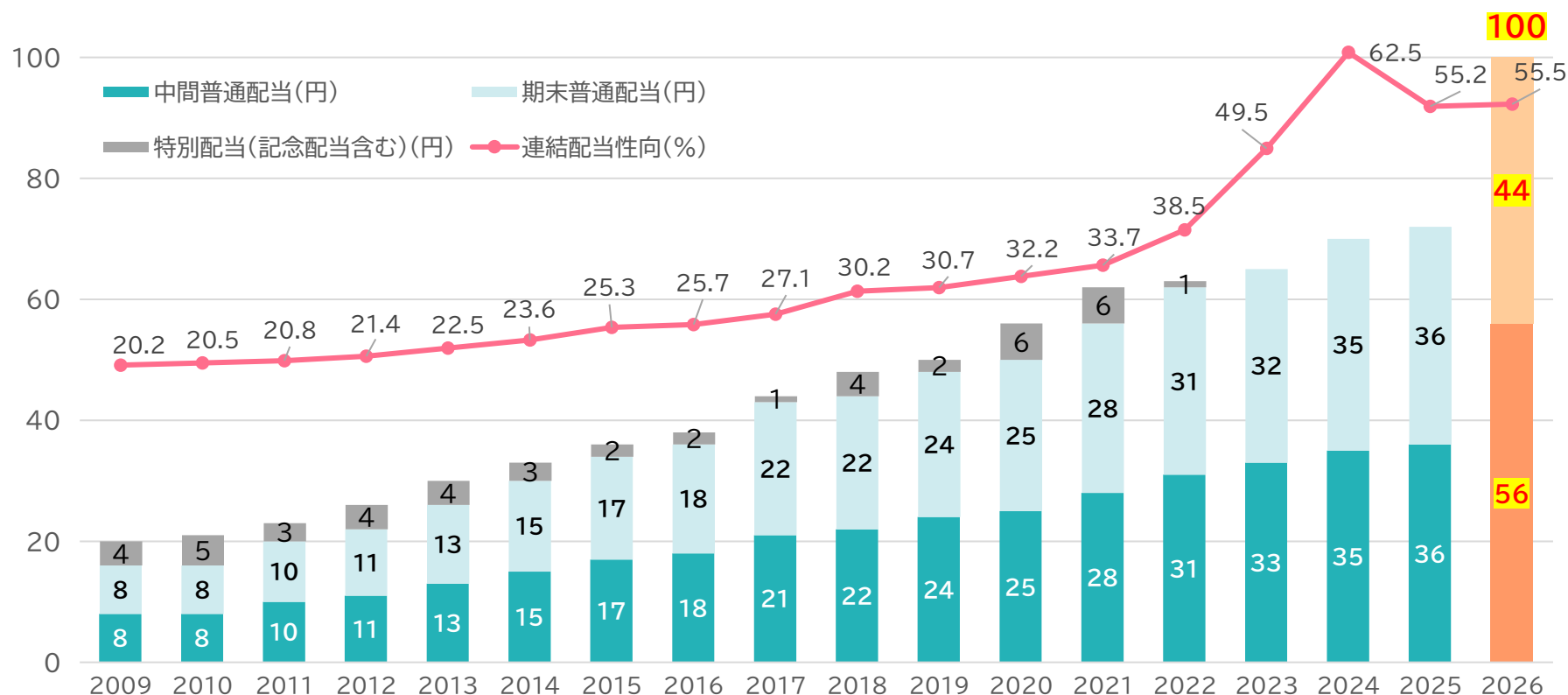
17期連続増配を続けていることで、
日経連続増配株指数(※)にも選出されています

※日経新聞社が公表する国内に上場する銘柄のうち連続増配を続ける銘柄から構成される株価指数

今期は大幅増配で18期連続の増配へ

- 2027年3月期は、増配の水準を大きく上昇させ、
中間は56円(前期比+20円)、期末は44円(前期比+8円)
前期比4割増の年間100円(+28円)の配当を計画

1株当たり配当金と連結配当性向の推移



資本コストや株価を株価を意識した経営～

- 成長戦略を実行していくことで、**純利益を拡大し続ける**（分子の増大、①）
- 株主還元と政策保有株式の縮減により、**資本構成を適正化**（分母の縮小、②）

→2026年度はアクションを加速

- 上記を通じ「積水樹脂グループビジョン2030」目標のROE8%以上を早期に達成します

ROE8%以上の実現に向けた当社アクションのイメージ



参考)コーポレートサイト／積水樹脂グループ公式「note」

積水樹脂グループの取り組みなどを随時発信中です

■ コーポレートサイト

<https://www.sekisuijushi.co.jp/>

■ 積水樹脂グループ公式「note」

<https://note.sekisuijushi.co.jp/>

記事の一部

積水樹脂グループ統合報告書 '2026を発行

<https://www.sekisuijushi.co.jp/sustainability/report/>



暮らしの安全・安心を支えるニッチトップ企業

公共・民間の幅広い分野で、社会に必要とされる製品を展開。
積水樹脂単体売上の約6割を、シェア3位以内(※)の製品が
占めています (※)自社調べ



社会課題解決型の事業で成長を続ける

防災・減災、インフラ更新、省人化などの成長市場で事業を拡大



当期28円増配(前期比約4割増)の年間100円へ

17期連続増配を実施。累進配当(※)を基本に株主還元を強化中。
当期は、増配の水準を大きく上昇させ、
中間は56円(前期比+20円)、期末は44円(前期比+8円)、
前期比4割増の年間100円(+28円)の配当を予想



(※)原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行う配当政策

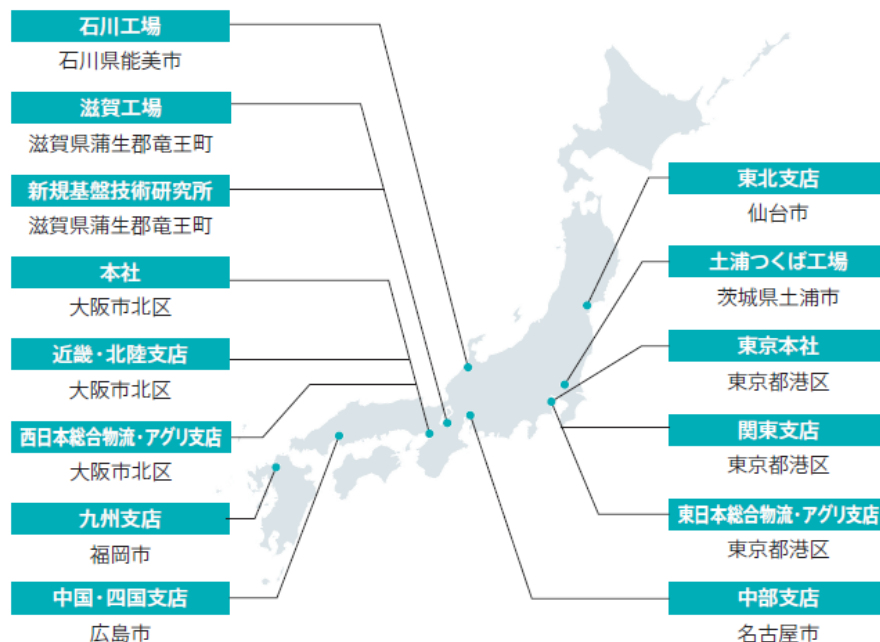
参考データ

会社情報 (2026年3月31日時点)

会社概要

社名	積水樹脂株式会社
設立	1954年11月26日
資本金	12,334百万円
連結従業員数	1,621名
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
証券コード	4212
連結対象会社数	25社
持分法適用会社	2社

拠点情報

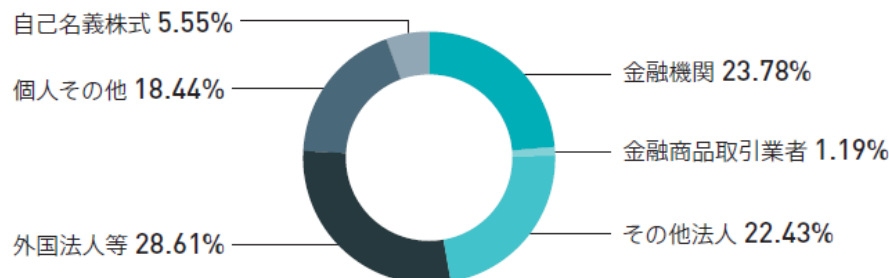


株式情報 (2026年3月31日時点)

株式概要

発行可能株式総数	128,380,000株
発行済株式総数	31,813,598株
株主数	6,743名

所有者別分布状況



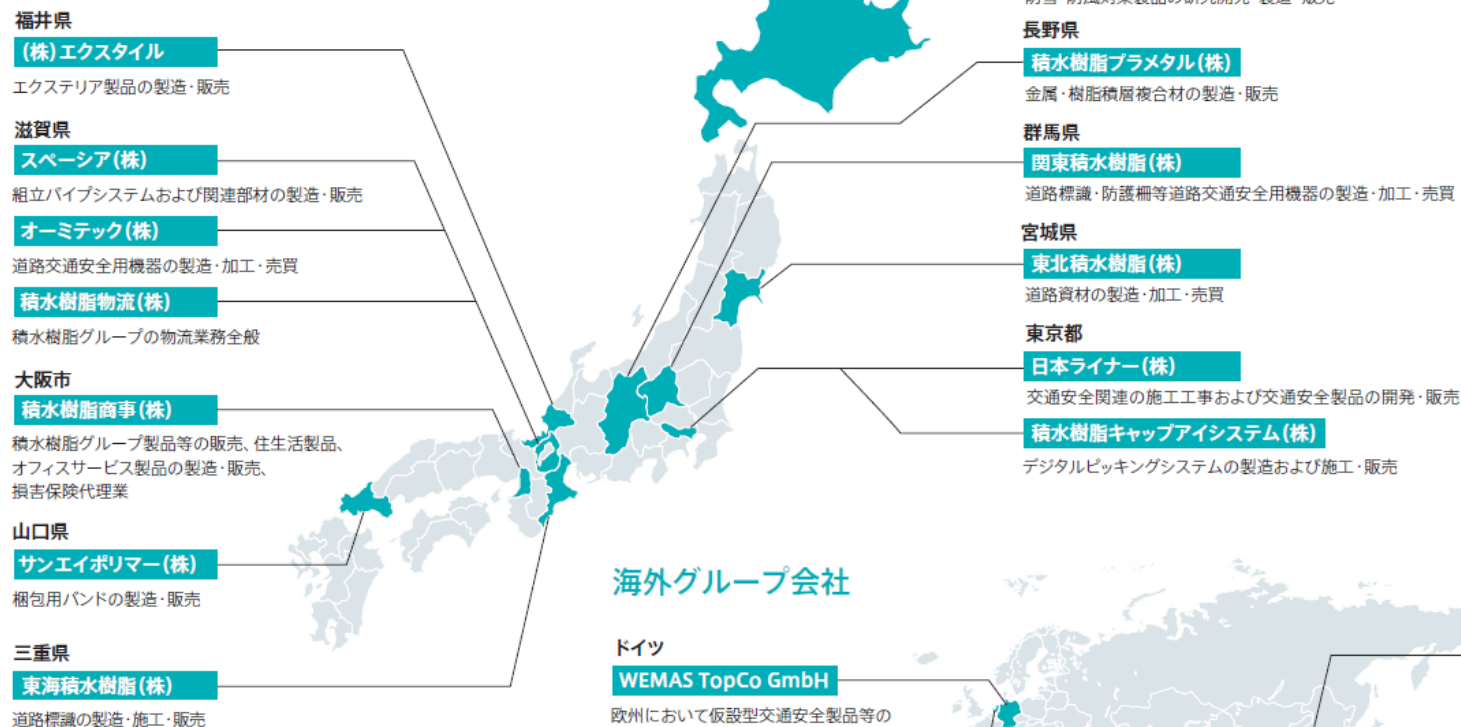
大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,717	12.37
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	1,610	5.36
積水化学工業株式会社	1,533	5.10
NIPPON ACTIVE VALUE FUND PLC	1,500	4.99
積水ハウス株式会社	991	3.30
第一生命保険株式会社	822	2.74
積水化成製品工業株式会社	816	2.72
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	783	2.61
樹栄会持株会	771	2.57
光通信KK投資事業有限責任組合	681	2.27

参考データ

主要グループ会社情報 (2026年3月31日時点)

国内グループ会社



海外グループ会社



Thank you

■ご注意

資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被らねたいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。